



# 「本当のカナダ」からの手紙”



## 【国立公園は有料】

今年の日本は大変な猛暑だったようですが、カナダは例年にない冷夏で、最高気温が 30 度を越えた日はほんの数日でした。

さて、8月と言えばバケーションです。カナダにはお盆のような年中行事がなく、特定の時期にまとめて休みを取ることはありません。7月から9月にかけて長い人で1カ月休暇を取る人もいれば、金曜日に有給休暇をとり少し長く週末を家でゆっくりする人もいます。

長期休暇の行き先としてはヨーロッパ、アラスカなどが人気ようです。近場でキャンプをするのも相変わらず人気ようです。キャンプといってもテントではなくキャンピングトレーラーを利用するので1～2週間が相場です。

## カナダの国立公園

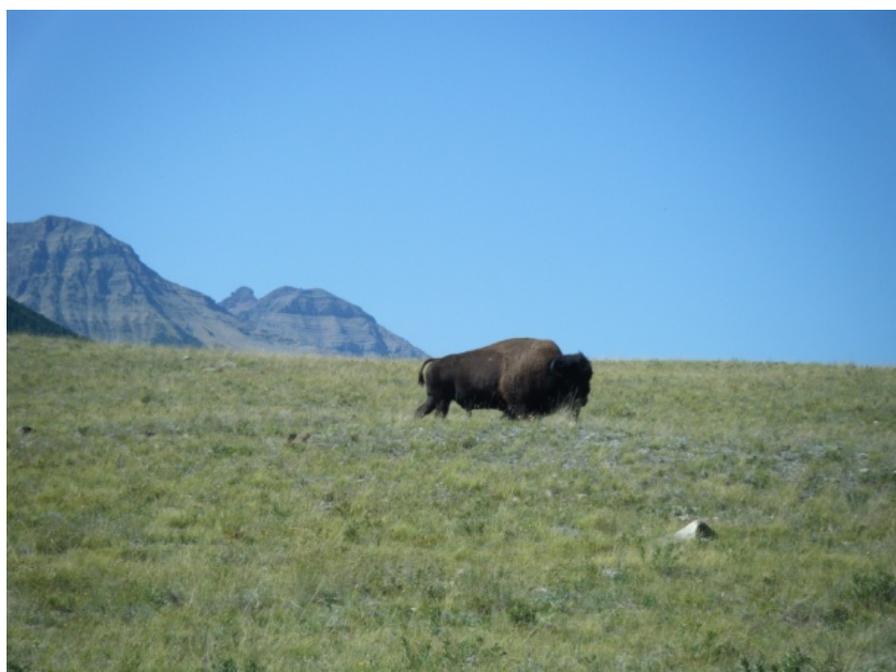
休日の行楽は家から車で2時間ほどで行ける国立公園がメインです。日帰りが可能なため、この夏はすでに4回ほど出かけました。国立公園に関して、日本との大きな違いは、土地はすべて国の管理下にあることです。もちろん利用者負担が原則で入場料を支払います。国立公園ごとに入場料が設定されており、有名なバンフ国立公園などは他と比べて1割ほど高めの設定となっています。

利用料金は利用形態により異なり、近場の国立公園を例では、以下のようになっています。

- ◆一日利用：大人 \$7.8 子供 \$3.90 家族 \$19.60
- ◆年間パス：大人 \$ 39.20 子供 \$ 39.20 家族 \$ 98.10
- ◆キャンプ：\$15-\$38 （シャワー等付属設備により差あり）  
（為替レート 1カナダドル＝82円程度）

この入場料は目的税の役割を果たしており、歳入はすべて公園の維持管理、啓発活動等にあてられます。入場者数の増加による環境への悪影響が心配されていますが、まだまだカナダの国立公園には大自然が残されています。

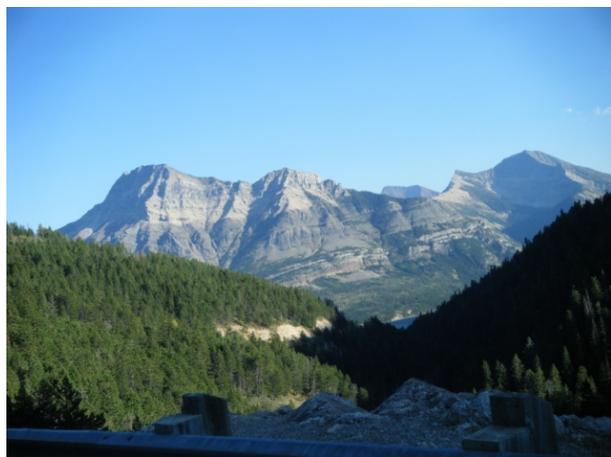
- 放牧されているバッファロー



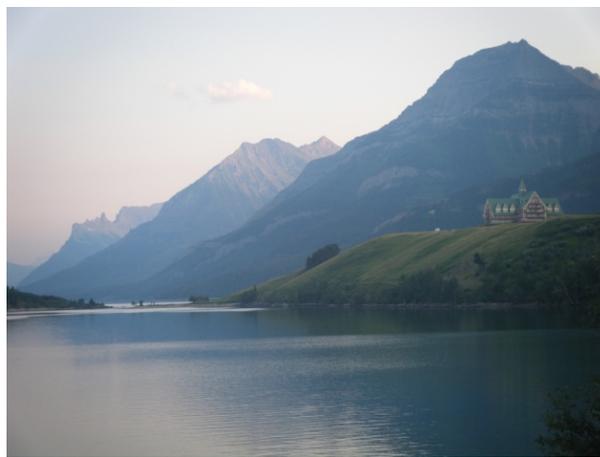


●湖畔に突然現れたグリズリーベアー

●鹿の親子



●ドライブウェーからの展望



●カナディアンロッキー

ここからほんの数キロ南下するとアメリカです。



●国立公園からの帰路

このような風景が延々と続きます。

▽編集室より

入場料を取ることで、国立公園の環境維持のための財源が確保されることと、料金抵抗により入場者数をコントロールできることがメリットが考えられます。ただ、広い国立公園ですから、お金を払わずに入ってしまう人はいないんでしょうか。ちょっと、せこい話ですが…。

